

取扱品種の特性概要と栽培上の要点

株式会社 石沢商事

2014

うるちの部

品種名	交 母 × 配 父	草型	稈長 cm	芒 多、少	稻先色	穂発芽性	出穂期 月・日	成熟 期 月・日	基肥量	穂いもち	耐倒伏	耐冷	穂肥の直前 の葉色	1回目の穂肥 の幼穂長mm	特性及び栽培上の注意
アキヒカリ	トヨニシキ×レイメイ	偏穂重	74	稀短	白	中	7.26	8.31	多肥	やや強	強	中	富士葉色4.1~4.3	2	短強稈であるが過度に多肥にすると登熟不良となるので注意。紋枯病に注意。
ハナエチゼン	越南122号×フクヒカリ	偏穂数	80	極稀短	黄白	やや難	7.27	9.3	やや多肥	中	やや強	やや強	3.9~4.1	2	短強稈。多収。分けつがとりやすく、生育中期の葉色低下に注意。
フクヒカリ	コシヒカリ×フクニシキ	中間	81	稀短	白	中	7.27	9.3	やや多肥	中	やや強	中	3.9~4.1	5	穂数が取れにくいので穂数の早期確保を図る。「コシヒカリ」より倒伏に強い。紋枯病に注意。
ほほほの穂	能登ひかり×あきたこまち	偏穂重	77	稀短	黄白	中	7.27	9.4	普通	中	中	中	3.6~3.9	5	葉いもち、穂いもちがハウネンワセ並み。耐冷性が弱い。
ミルクーフリンセス	関東163号×鴻278	中間	78	少短	白	やや難	7.27	9.3	普通	やや強	やや強	弱	3.6~3.9	5	いもち病抵抗性はやや弱いので、多肥栽培や常発地では注意する。
あきたこまち	コシヒカリ×奥羽292号	偏穂数	77	稀短	黄白	難	7.28	9.5	普通	やや強	中	中	3.6~3.9	5	穂数はアキヒカリより確保しやすい。稈は太いが耐倒伏性は不十分、耐肥性も高い方ではない。収量は穂数依存度が大きい。葉、穂いもち病共に強い。
てんたかく	ハナエチゼン×ひとめぼれ	偏穂数	69	やや少	黄色	難	7.29	9.5	やや多肥	強	強	—	3.9~4.1	5	耐倒伏性は強い。
萌えみのり	南海128号×はえぬき	偏穂数	66	やや少短	黄白	難	7.30	9.5	普通	中	強	強	—	—	葉いもち抵抗性はやや弱、白葉枯病抵抗性は中である。直播において倒伏性に強く多収で、移植・直播どちらでも「ひとめぼれ」並の良食味である。食味の低下を防ぐため多肥栽培は避ける。玄米千粒重は23.2g。
ひとめぼれ	コシヒカリ×初星	偏穂数	71	稀短	黄白	難	7.31	9.7	普通	中	中	極強	3.6~3.9	8	耐冷性。良食味。種子の休眠性が強いので浸種を十分にとる。
ササニシキ	ハツニシキ×ササシグレ	中間	90	極少短	黄白	やや易	7.31	9.13	やや少肥	弱	弱	やや弱	—	—	耐倒伏性、いもちに弱い
ミルクークイーン	コシヒカリのMNU処理	中間	90	少短	白	難	8.5	9.15	少肥	やや弱	極弱	極強	3.2~3.5	15	コシヒカリと同様。
キヌヒカリ	(収2800号×北陸100号)×ナユカ	中間	77	無	黄白	やや易	8.7	9.15	やや多肥	やや強	強	—	3.6~3.9	5	縞葉枯病には弱いので常発地帯は避ける。穂発芽性は日本晴並であるので適期刈取に留意する。心白、乳白に注意。倒伏には強い。
コシヒカリ	農林22号×農林1号	中間	90	少短	白	難	8.7	9.16	少肥	やや弱	極弱	極強	3.2~3.5	15	葉色が淡く稈が伸びやすいので早い穂肥は控え、葉色を十分にさます。穂いもち病に注意。播種前の催芽を充分に行い発芽を揃える。
ヒカリ新世紀	{(関東79号×十石)短稈F4選抜×コシヒカリ}×コシヒカリ7回戻し交配	偏穂数	72	—	—	難	8.8	9.16	多肥	やや弱	強	強	—	—	多肥・蜜植栽培により、コシヒカリ並の良食味多収穫が可能。コシヒカリの適作地全域で早期~普通期栽培が可能。シラハガレ病抵抗性・カラバエ抵抗性は「中」である。
どんとこい	キヌヒカリ×北陸120号	偏穂数	76	無	黄白	中	8.10	9.23	普通	やや強	強	弱	3.6~3.9	2	山間部での栽培には注意。耐冷性が弱。穂発芽性が中であるので刈り遅れに注意する。
あさひの夢	あいちのかおり×(月の光×愛知65号)	偏穂重	83	極稀短	黄白	やや難	8.10	9.24	多肥	やや強	強	—	3.9~4.1	2	稈が強く、倒伏に強い。
あきだわら	ミレニシキ×イクヒカリ	偏穂重	80	極短	黄白	やや難	8.16	9.27	やや多肥	やや弱	強	—	—	2~	基肥はコシヒカリより窒素(N)成分で、3~5割増しで多収となる。栽植密度は穂数が少ないので、やや蜜植で多収となる。いもち病と縞葉枯病も弱いので、適正に防除を行う。
朝の光	あ系103B×愛知37号×北陸103号	偏穂数	79	短	黄白	やや難	8.12	9.27	やや多肥	中	強	強	3.8~4.1	2	強稈であるがごま葉枯病に弱い。稈がやや長く、穂いもち病に強くないので、穂肥の過施肥は慎む。穂数がやや少ないことから、初期生育の促進に努める。
黄金晴	日本晴×喜峰	偏穂重	88	稀短	黄白	難	8.14	9.30	やや多肥	中	強	—	3.9~4.1	2	秋落水田に適する。穂いもち病もやや弱い。穂数確保に努め多肥栽培を行う。

※MNU処理 育種法の一つ。化学物質MNU（メチルニトロソウレア）による突然変異を育種に利用したもの。

品種名	交 母 × 配 父	草型	稈長 cm	芒 多、少	稻先色	穂発芽性	出穂期 月・日	成熟 期 月・日	基肥量	穂いもち	耐倒伏	耐冷	穂肥の直前 の葉色	1回目の穂肥 の幼穂長mm	特性及び栽培上の注意
日 本 晴	ヤマビコ×幸風	偏穂数	89	少中	白	中	8.16	10.3	多肥	中	強	—	3.9~4.1	2	穂肥回数をやや増やす。穂いもち病、ごま葉枯病に注意。
ヤ マ ヒ カ リ	中国26号×コシヒカリ	中間	90	稀短	白	やや易	8.16	10.4	やや多肥	強	強	—	3.9~4.1	2	日本晴、ヤマボウシに比較してももち病に強いが、紋枯病にはやや弱い。穂発芽性は易。
き ぬ む す め	キヌヒカリ×祭り晴	中間	84	稀短	黄白	やや易	8.17	10.3	普通	中	中	弱	—	—	葉いもち抵抗性は中、白葉枯病抵抗性はやや弱である。外観品質が良く、食味はコシヒカリ並みである。苗が「キヌヒカリ」並に伸びやすいので、育苗時は徒長苗に注意する。玄米千粒重は、21.4g
ヒ ノ ヒ カ リ	黄金晴×コシヒカリ	偏穂数	85	稀短	白	難	8.24	10.16	普通	弱	中	やや弱	3.6~3.9	2	成熟期が遅い。害虫防除を徹底。多肥により倒伏のおそれあり注意。 播種・田植時期早く行う。
に こ ま る	きぬむすめ×北陸174号	偏穂重	82	稀短	白	中	8.27	10.17	多肥	やや弱	中	—	—	—	収量はヒノヒカリを5%程度上回る。白米のタンパク含量が低く、良食味。苗・移植後の草丈の伸長が大きいため初期発育を抑え気味に管理する。

もちの部

品種名	交 母 × 配 父	草型	稈長 cm	芒 多、少	稻先色	穂発芽性	出穂期 月・日	成熟 期 月・日	基肥量	穂いもち	耐倒伏	耐冷	穂肥の直前 の葉色	1回目の穂肥 の幼穂長mm	特性及び栽培上の注意
峰 の 雪 も ち	奥羽302号×ヒメノモチ	中間	68	少短	淡紅褐	易	7.26	8.31	多肥	弱	強	中	3.6~3.9	2	極短稈で耐倒伏性に強い。いもち病は弱い。
と み ち か ら	滋賀羽二重糯×富山早生	偏穂重	73	稀短	白	中	7.26	8.31	多肥	やや強	強	—	4.1~4.3	2	短強稈で耐肥性がある。少肥栽培では収量が落ちる。刈り遅れしない。紋枯病、靱割れに注意。
ヒ メ ノ モ チ	大系227×こがねもち	偏穂重	77	稀短	白	やや易	7.29	9.5	普通	中	やや弱	中	3.6~3.9	8	稈は強くないので多肥栽培を避ける。いもち病に弱いので注意する。ハゼは良い。靱割れ注意。
ヒ デ コ モ チ	大系糯1076×ふ系72号	偏穂重	72	無白	白	中	7.29	9.5	やや多肥	中	強	やや弱	3.6~3.9	5	穂数が取れにくいので、やや多肥栽培する。耐冷性に弱い。品質はヒメノモチと同等以上。 いもち病にやや弱い。
こ が ね も ち	信濃糯3号×農林17号	偏穂重	89	稀短	淡褐	易	8.3	9.11	普通	弱	極弱	—	3.2~3.5	10	長稈で稈はもろく倒伏しやすい。早い穂肥は控える。紋枯病、いもち病、穂発芽に注意。
白 山 も ち	コチヒビキ×ヒメノモチ	中間	80	少中	黄白	やや易	8.5	9.13	やや多肥	やや弱	強	中	3.6~3.9	5	多肥多収、耐倒伏性に優れている。葉いもち病、穂いもち病やや弱く、穂発芽やや易い。 刈り遅れると靱割れが出やすい。
カ グ ラ モ チ	F3-249×平六糯	穂重	90	少短	紅褐	易	8.5	9.12	普通	やや弱	中	—	3.6~3.9	8	長稈のため早い穂肥は施用しない。穂いもちに弱く、穂発芽しやすい。
マ ン ゲ ツ モ チ	F3-249×農林糯45号	中間	90	稀短	淡紅褐	中	8.13	9.27	普通	中	やや弱	—	3.6~3.9	8	稈は「こがねもち」並みで弱いので穂肥は早めない。いもち病に注意。Cレースに注意。 秋落ちに弱い。
新 大 正 糯	大正糯×農林32号	中間	93	稀短	紫褐	易	8.16	10.1	やや少肥	弱	極弱	—	3.2~3.5	15	葉色はやや淡く、長稈であるので施肥、水管理に注意して倒伏防止に努める。後期肥切れによる穂重低下になりやすい。いもち病、穂発芽に注意。

注意事項

1. 本表は種苗の5月10日植えでの生育状況と品種比較田との成績により想定しました。
2. 幼穂形成期、出穂期は、田植えの時期、肥料の効かせ方、土壌条件、その年の天候によって多少の違いがありますから、およその目安としてください。

1. 基肥量は普通で塩加燐安264（N-12%、P-16%、K-14%）を30kg/10aとし、少肥は5kg減、多肥は5kg増として施用して下さい。これ以外の肥料を使用する場合は窒素成分で換算してください。
2. 倒伏しやすい品種は、穂肥が十分に施用されていないので、上記の穂肥直前の色（富士カラー葉色版による）まで葉色を落としてください。
3. 穂肥は登熟、千粒重を高めるために施用するので、穂肥を施用する前に中干しを行ないイネの姿勢を良くしてください。
4. 穂肥の施用時期 肥料の効かせ方は、土壌条件、天候により多少の違いがありますので、幼穂の長さが上記になったら施用してください。2回目は1回目より7~10日後に施用してください。